外科の歩み

奥田淳三

キーワード:外科系総合診療; 医局派遣外赴任; 地域医療

(雲南市立病院医学雑誌 2019; 16(1): 28-30)

1. はじめに

外科は昭和23年3月の病院創設と同時に、内科、産婦人科、耳鼻咽喉科と並んで開設された。以来72年間途切れることなく、60人余りの外科医によりこの地の外科診療が担われてきた。

本稿では主にこの20年間の歩みをふりかえりつつ、 外科の現状と未来について述べる。

2. 外科20年の歩みと現状

病院創設すなわち外科開設以後数十年は一貫して岡山大学医学部第2外科からの着任医師が外科診療にあたっていた。平成3年より地元島根医科大学(現島根大学)第2外科からの派遣が始まり、20年前の時点では岡山大学から3~4人、島根医科大学から1人の常時計4~5人の体制であった。20年前から現在に至る常勤医師と在任期間について表1に示す。

この20年間の前半の10年余りは、表1にあるように 平成元年から着任した末光浩也医師と平成10年に着任 した大塚昭雄医師(現名誉院長)が長年にわたり外科 診療と後進育成にあたり、岡山大学、島根医科大学か らの若手医師の外科修練の場ともなっていた。

このような当院の外科の体制に転機が訪れたのは、 医師不足が深刻化した平成20年前後のことである。平 成16年に始まった新臨床研修制度の影響で内科を中心 とした常勤医が激減し、それに伴い救急患者、入院適 応患者等、地域の患者が出雲、松江の都市部病院に流 れていくという状態であった。

こうした中、平成17年に着任した大谷順医師(現病 院事業管理者)が平成22年に地域総合診療科を立ち上 げ、外科診療の傍ら、平日日中の救急車対応をはじめ、 外科以外の疾患の初期対応及び可能な範囲での入院加 療を行うようになった(図1)。そして当時初期臨床 研修医として研修していた庭野稔之医師と筆者が翌平 成23年、大学医局からの派遣という形ではなく、当院 直接雇用という形で外科に名を連ねた。以来外科修練 と併行して「外科系総合診療医」として外科以外の患 者の診療にあたった。また翌年からは「赤ひげバンク」 を通して神奈川県から森脇義弘医師 (現副院長)、岡 山大学外科からの派遣で澤田芳行医師が加わり、外科 及び地域総合診療科としてこの地の地域医療を支える ために尽力した。さらに平成27年からは象谷ひとみ医 師が当院外科で初めての女性医師として島根大学外科 からの派遣で着任し、2人の子育てをしながら外科に 総合診療に従事した。そして平成29年からは、島根大 学医学部への雲南市からの地域枠入学1期生である春 日聡医師が外科医を志し、東京での修練を終えて着任 した。同年には松江出身で長年腹腔鏡下での大腸癌の 手術に携わってきた齋藤晋輔医師が東京から着任。そ の指導により、それまでほとんど開腹で行ってきた大 腸癌の手術については難症例以外ほとんどが腹腔鏡下 で行えるようになった。最後に平成30年からは「赤ひ げバンク」を通して遠く三重県から成田公昌医師が着 任し、令和元年現在、大谷、森脇、成田、春日、筆者 の5人体制である。

雲南市立病院外科

著者連絡先:奥田淳三 雲南市立病院外科[〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1]

E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp

3. 未来に向けて

高次医療機関のある松江、出雲に比較的近い当地であるが、高齢化に伴う付添の問題等があり、当院での手術へのニーズは少なくない。消化器癌をはじめ甲状腺、乳腺疾患、肝胆道系良性疾患、血管系疾患、ヘルニア、肛門疾患、外傷、さらには腸閉塞等の緊急手術を要する疾患に至るまで、外科としてそうしたニーズに応え、一定のレベルを維持していくのは容易ではない。前述の地域総合診療科立ち上げ以降、内科医師の増員および地域ケア科の新設があり、今度は逆に外科スタッフが外科領域に専念できる状況に変化しつつある。しかし症例数の限られた環境であり、その中での外科としてのスキルアップ、レベルアップは今後の課題である。

外科医不足が慢性化した現状では今後大学医局から

の指導的派遣は期待できないであろう。前項で述べた 齋藤医師の着任で大腸癌手術のスキルアップがなされ たような人の流れを偶然ではなく、作り出していけな いだろうか。そしてその流れにのって当院から修業に 出て戻ってこられるような体制ができればと思ってい る。

4. おわりに

外科医自体も医局からの派遣に期待できない時代となった今、地元出身の医師、この地に惹かれた医師、この病院に引き寄せられた医師、偶然選んだ医師…。この10年がそうだったように、これからも出自の様々な外科医が当院の外科の灯を守っていくことになるであろう。そして外科を取り巻く状況がどのように変化しようともこの地域の外科、ひいては地域医療を守り続けていくのだという気概は持ち続けていきたい。

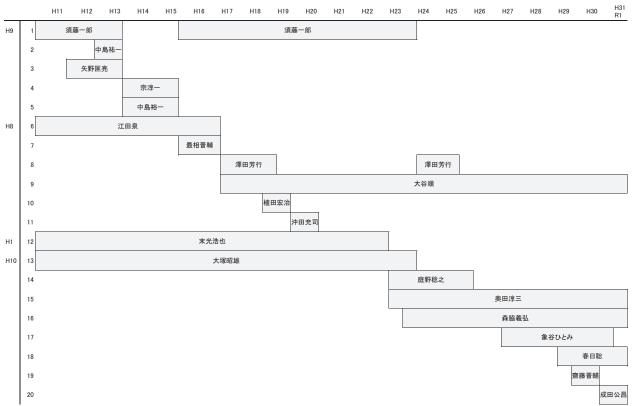


表 1 外科常勤医師在任期間



図1 総合診療医としての外科医の活動:放射線科的インターベンション治療(左上)、小腸減圧チューブ操作(右上)、外科外来の片隅の地域総合診療科外来での研修医の診療研修(左下)、救急外来での医学生の臨床実習(右下)

History of department of surgery

Junzo Okuda

Department of surgery, Unnan City Hospital

Correspondence: Junzo Okuda, MD, Department of surgery, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]

 $\label{eq:continuity} \begin{tabular}{ll} Telephone: 0854-47-$7500 / Fax: 0854-47-$7501 \\ E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp \\ \end{tabular}$